



國家人權博物館  
NATIONAL HUMAN RIGHTS MUSEUM

## 白色テロ緑島記念園区

### 開園時間

▶ 月曜日から日曜日まで 08:00-17:30

### ガイド情報

#### ▶ グループガイド

10人以上のグループはガイドを予約できます。参観日の1日前に申し出て下さい。

予約電話：089-671-095内線66。

予約可能な時間帯：10:00-12:00、13:30-17:30。

#### ▶ 定時ガイド

毎日09:30、10:30、11:30、14:00、15:00、16:00、17:00。

5月から9月の観光シーズンは、11:30と17:00の二回を増加。

### 交通情報

#### ▶ 空路

台東空港で徳安航空に乗り換えて緑島へ。飛行時間は10-15分間。

風速や降雨量など気候状況により、航空機の運航状況は影響を受けます。

#### ▶ 海路

台東富岡漁港と緑島南寮漁港の間を往復する便が多く運航しており、

天候や潮流の影響で運行時間が変更されます。時刻表は月々調整されます。

#### ▶ 白色テロ緑島記念園区へ

緑島到着後、オートバイや自動車で環島公路沿に進むと、約15分間で到着。



國家人權博物館  
NATIONAL HUMAN RIGHTS MUSEUM

95141 台東縣綠島鄉將軍岩 20 号

電話：089-671-095

ファクシミリ：089-671-288

# 白色テロから人権博物館へ 闇に覆われた40年の権威主義時代を紐解く

白色テロから人権博物館へ

## 白色テロ時代

1945年、日本が敗戦して無条件降伏し、中華民国政府が台湾を接收しました。その後、国民党政府の失政により、1947年に「二二八事件」が発生し、続いて、国共内戦に敗れた中央政府は、1949年に台湾に全面撤退しました。そして、国内外の危機に対応し、反共と政権の安定を目的に、1948年に政府は《動員戡乱時期臨時條款》を公布し、1949年には、党国体制の権威を確立して統治に利するため、相次いで、《台湾省戒嚴令》、《懲治叛乱条例》、《戡乱時期檢肅匪諜条例》などの関連法令を定めて異見者を鎮圧、情報機関は上述の法令に「違反」した人民を逮捕、取り調べ、起訴、裁判、監禁、さらには「犯人」の処刑を行い、多くの冤罪や誤った事件を生み出したことで、深刻な人権侵害が発生しました。この高圧的な統治は40余年(1949-1992)に及び、「白色テロ時期」と称されています。

戒嚴時期の不当な反乱およびスパイ裁判の判決案に対する補償基金会の統計によると、2014年3月8日までに受理された案件の総合計は10,067件です。審査を終えたものは10,065件で、このうち補償を受けたものは7,965件、補償を受けられなかったものは2,036件、単純な名誉回復案件は64件でした。「匪諜（共産匪賊の間諜）」と「台独」は国民党政府が反体制派に対して最も頻りに用いた罪名で、実際の受難者数は補償申請件数を上回るとされます。

白色テロ時期は、受難者と家族に甚大な災害を与えただけでなく、一般の民衆をも政治や社会問題から身を遠ざけ、口を噤むなどの影響をきたしました。

## 国家人権博物館の成立

文化部は、当時政治受難者が監禁された「台湾省保安司令部新生訓導処、国防部綠島感訓監獄」と、かつて裁判と拘留関係が行われた「新店二十張景美軍看守所」の遺跡に対し、長年の計画と建設を経て、2002年から「綠島人権紀念園區」として開幕し、2007年には「景美人権文化園區」を開園させ、さらに2011年には「国家人権博物館準備処」の運営を始めました。6年の準備作業を経て、政治受難者の文物、史料の整備と人権教育推進の計画作業はおおむね完了し、二つの園區を白色テロ紀念園區として形作り、台湾における人権発展の歴史を検証し、国家的記憶を形成するのに不可欠な資産となりました。2017年10月、「国家人権博物館組織法（草案）」が立法院に送られ審議され、同

## 火烧島へ 読み・聞き・記憶する

### ▶ 隔絶された翠緑の島

綠島の旧名は火烧島で、面積は約16km<sup>2</sup>、台湾本島から33km離れており、約四千年前の先史時代に既に人類がここで生活していました。1949年に綠島と改称され、台東県の管轄下に入りました。二百年余りに漢人が台湾本島や小琉球からここに移り住み、公館、中寮、南寮、温泉、流麻溝などの集落を形成しました。

### ▶ 海上の監獄 孤立した魂

日本統治時代の「火烧島浮浪者收容所」から、戦後権威主義統治時代の1950年代に「新生訓導処」となり、1970年代には「綠洲山莊」として政治犯が收容され、戒嚴令解除後に普通の刑務所を経て今日は監獄の遺跡となり、「白色テロ綠島紀念園區」として政治受難者の人権の十字架の役割を担っています。

歴史の現場に足を踏み入れ、遺跡に立つと、心は孤島の海風や波浪と共に起伏するのを感じるのです。

### ▶ 遺跡の保存 人権の旅

「白色テロ綠島紀念園區」は、政治犯を收容していた監獄の独特な歴史を以て、「負の文化遺産」としての価値を備えています。歴史遺産の保存を通じて、戒嚴時期の人権史を研究し、綠島の自然生態と結びつけることで、内外の旅客が台湾の民主化と人権の歩みが、如何に艱難辛苦にみちたものであったかを思い知るのです。

## これまでの歩み

### 白色テロ綠島紀念園區

1911 日本統治時代の1911年から1919年、台湾総督府が「火烧島浮浪者收容所」を設置。

1951 台湾省保安司令部が「新生訓導処」（莊敬宮区）を設置、政治犯に対する思想改造に使用。警備総司令部は流麻溝東側の土地を接收し、第三職訓総隊（自強宮区）を創設、管理のむづかしい暴力団関係者の感化施設として使用。

1965 綠島新生訓導処の政治犯を、国防部台東泰源感訓監獄にそれぞれ移送。

1970 2月8日に「泰源事件」が発生、国防部は綠島感訓監獄（綠洲山莊）を開設。

1972 綠洲山莊が竣工、台湾全土の各地軍事監獄の政治犯を收容。

1987 戒嚴令解除後、国防部は第三職訓総隊の收容者を泰源監獄に移送、綠洲山莊の收容者は法務部に移送され、台湾綠島監獄が収監を代行。

1991 第三職訓総隊を綠島技能訓練所に改め、国軍勳徳訓練班が短期進駐。

1998 施明德立法委員ら16人が、綠洲山莊の保留を提案。翌年に公聴会を招集し、紀念館もしくは博物館の建立を提案。

1999 12月10日、「綠島人権紀念碑」が落成。

2000 11月24日、交通部が「綠洲山莊を史蹟館あるいは紀念館とするプロジェクト」を引き継ぐ。

2001 5月、観光局が「綠島人権紀念園區計画案」を進める。

2002 12月10日、綠洲山莊の先行公開と展示開幕式典を開催。

2004 4月29日、行政院が「綠島人権紀念園區」の範囲拡大を認可。

2005 台東県政府が綠洲山莊を「歴史の建築」として登録。

2006 管理機関を行政院文化建設委員会に移行し、「綠島文化園區」と改称。

2008 国立台東生活美学館の管轄下に移行。

2009 6月、「綠島人権文化園區」に改称。

2011 「国家人権博物館」を創設するべく準備処が設立され、景美と綠島の二つの紀念園區を管下に収める。

2014 1月17日、「文化景觀類文化資産」に登録。

2018 3月15日、国家人権博物館が正式に成立。5月17日、「白色テロ綠島紀念園區」開幕。

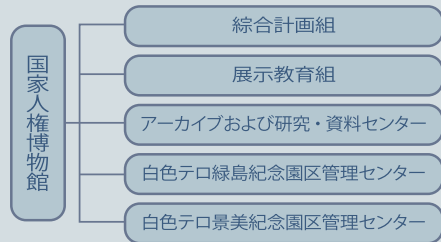
過去を反省：過去の人権侵害の歴史を深く理解する。

教訓を汲み取る：人身の自由迫害と人権侵害の覆轍を踏まない。

未来を展望：各種人権の議題を支持し、人権の理念を推進し、民主人権の普遍的価値を根付かせる。

年11月28日に立法院本会議で可決、12月13日に総統が公布し、2018年3月15日に施行されました。

国家人権博物館の設立は、台湾が自由で民主的な国であり、人権を重視する国であり、過去の人権被害者と勇気をもって向き合う国であることを宣言するものです。

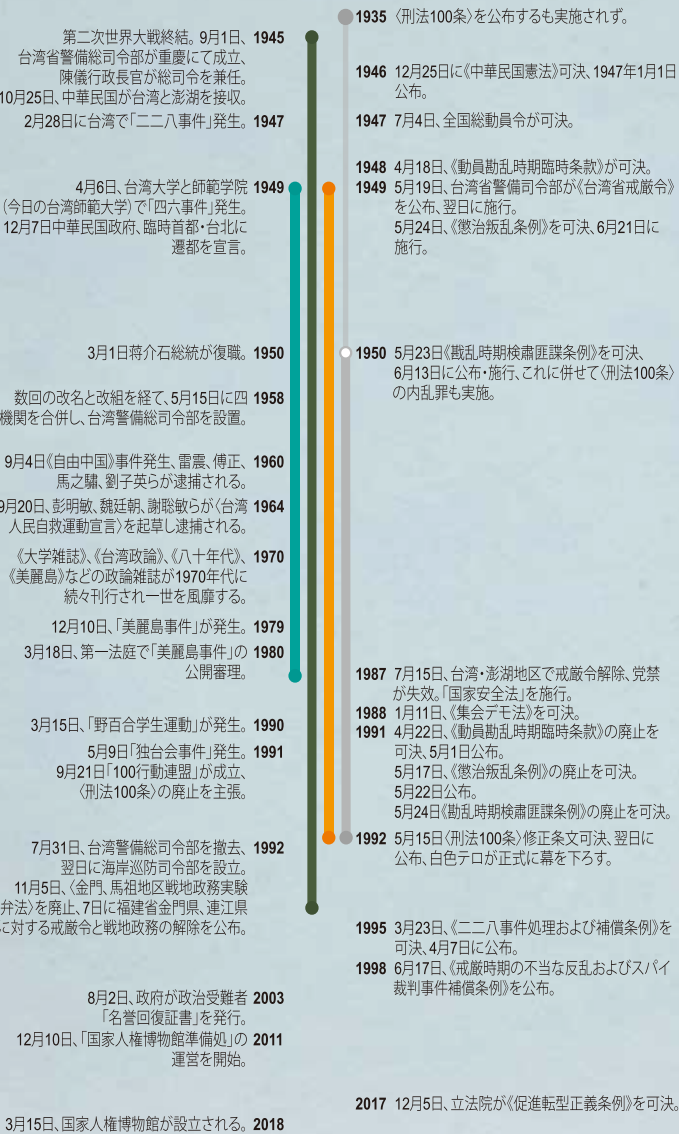


園區でガイド解説する元政治受難者

いふたてこたてか、眼まきを、夜まきを  
にめたの、子  
みわつて、こ島の、こ  
か、難母のく多、けだ、れど  
お、代、母の、あ

# 黏貼區

## 台湾権威主義統治時期の関連事件と法的根拠



■ 権威主義統治時期
 ■ 戒嚴時期
 ■ 白色テロ時期
 ■ 《刑法100条》実施時期